

スマイル タウン

2022
1・2
月

第317号

ひの社会教育センター は、市民のみなさまの
“やりたい”を実現し、「豊かなくらし」を応援する
施設として、1969年に日野市と勤社会教育協会が
協定書に基づいて設立しました。
今月もセンターで生きがいを創る沢山の
市民の方々の活動をお伝えします。

おとな講座 「やさしい墨絵」

『墨色』で描く世界の奥深さ



- シリーズ 「SDGsを自分ゴトにしてみた！」⑤
- 表紙の講師は…「やさしい墨絵」 講師・丁 長林 先生
- 2021年度 3つの“まなび”
- センターからのご案内 賛助会・寄付お礼

SDGs を自分ゴトにしてみた！

2030 年に向けた国際コンセンサス「SDGs」。センターのある日野市も SDGs 未来都市に指定され、様々な所で 17 個の目標ロゴマークを目にするようになってきました。SDGs の目標はどれもシンプルでとても大切そう。しかし、この目標を達成するには自分たちに何ができるのでしょうか。

今年度はひの社会教育センターの職員がそれぞれ関心のあるテーマを取り上げ、「自分ゴト」としてとらえ、その分野の実践家や専門家と対談しながら SDGs の取り扱い方について考えていきます。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



シリーズ

「SDGs を自分ゴトにしてみた！」⑤

14 海の豊かさを守ろう

15 陸の豊かさを守ろう

今回のテーマは「海の豊かさを守ろう」「陸の豊かさを守ろう」の二つ。

学生時代を千葉県の勝浦で過ごし、趣味は釣りという職員の渡邊和英が、千葉県館山市の「たてやま・海辺の鑑定団」で理事を務める竹内聖一さんにお話を伺いました。

こちらの団体は、おもに千葉県館山市沖ノ島を中心に、美しい自然環境を多く残した南房総で、自然体験プログラム（無人島探検、スノーケリング、ビーチコーミング、釣り体験など）と環境を守るための活動（アマモ場再生活動・森の再生活動・海岸清掃調査など）を行っています。

渡邊…取材にあたり、学生時代に千葉の砂浜をトレーニングで走っていた際、海岸のゴミが気になったことを思い出し、「たてやま・海辺の鑑定団」さんの活動に興味を持ちました。活動の経緯を伺えますか。

竹内…2004年の設立当初は沖ノ島を拠点とした自然体験活動や、修学旅行の目的地として、海の自然を伝える活動が中心でした。ここはあまり知られていませんが、東京からそんなに遠くない場所で、サングアがあったり、自然のポテンシャルが高い場所です。ところが、自然環境の変化に伴い、2013年頃から、

沖ノ島のアマモ場が急に減り始め、見た目が変わってきました。調べるとアマモが短くなり、魚に食べられる被害にも遭っていることがわかりました。「今ある自然をそのまま伝えるという活動」だったのが、それからは今ある自然を元通りにという取り組みも同時に行うようになりました。

渡邊…なぜこのような変化が起きたのでしょうか。

竹内…はつきりとした理由はわかりませんが、きっかけは大きな台風が続けてやってきたこと。アマモが根こそぎ倒れてしまい、育つ勢いよりも食べられるスピードの方が上回ってしまったのではないかとこのことでした。これまで、アマモの再生は一年サイクルの活動で4回程チャレンジをしていますが、あまりうまくいっていないのが実情です。

そして同じ頃、沖ノ島の森の中でも、木が立ち枯れるなどの変化が見られました。

渡邊…次の「森の再生活動」につながる話ですね。

竹内…樹木医に診てもらうと、神社の樹齢50年の御神木も弱っていることがわかり、数年は様子を見ていました。そして2019年に房総半島を大きな台風が襲い、島の木が30%程も倒れる被害がありました。専門家との調査によると島が全体的に乾燥していると言われ、島にコンクリート道を整備したことが影響を



写真提供:「たてやま・海辺の鑑定団」
アマモ場再生活動の記念撮影。奥に見えるのは、沖ノ島の森。

与えているのではないかとこのことでした。海と森の関係性の深さを再認識し、森を再生していく活動にも取り掛かりました。それはアマモの再生にもつながった活動でした。

続いて3つめの活動として、2006年からは「国際海岸クリーンアップ」を展開し、海岸清掃とゴミ調査を行っています。調査して興味深いのは、海岸に打ちあがるゴミの種類の变化。開始したころはタバコのフィルターなどが多く、現在はペットボトルや、ふた、人工芝やマットの破片などプラスチック片などが多いです。

活動を経て思うことは、「ゴミを出さない・流し出さない」という基本的な問題を解決しなければいけないのではないかとこのことです。自分の生活が、海につながるという認識がないのではないかと、「海を汚す」つもりがなくても、ゴミが海に流れ着くということを自分ごと

としてとらえないと変わっていかないと
思います。「海はきれい・楽しい・生き物
がいる」だけではなく、目の前で、そこ
で見ながら、海の現実を知ることの必要
性を感じます。

渡邊…生活の中の一部が環境に影響を与
えているということがわかります。暮ら
しの中で取り組めることは、まさにそ
ういうことですね。活動とおしての課
題はありますか？

竹内…地元での課題も身近に感じます。
首都圏からかなり近い場所なので、若者
が都市へ出やすく、少子高齢につながっ
ています。重要なのは子ども時代に、地
域のことを知ることではないでしょう
か。楽しさ前提で、大切さを知る事、起
きていることを知る事を進めています。

渡邊…たしかに、幼少期に自然に触れた
ことや、大切さに触れていることで、郷
土愛が生まれると思います。

竹内…海があり山もある豊かな地元、地
域の人はそれがあって当たり前と思っ
ています。

コロナ禍を経て、観光公害という言葉
も耳にするようになりました。訪れる側
が、地域に寄り添える姿勢をもつよう心
掛けられるといい感じます。以前から、
島の保全と活用の仕組みづくりに取り組
んでいるので、沖ノ島は訪れる方にもご
協力をいただく、環境保全協力金の仕組
みをつくっています。何かの働きかけを
始めることで、状況は必ず改善していく

と思っています。併せてルール・マナー
の啓発を続けていくつもりです。

渡邊…地元に対してのアプローチもしつ
つ、訪れる方にも愛をもって来てほしい
という思いが伝わります。

竹内…自分自身の子どもの時代に、海で遊
んだ様々な体験が鮮烈に記憶に残って
います。どんな小さなインプットでも、
幼少期にやっておくことが大事だと感
じます。ないよりは絶対あった方がよい
です。育ちながら、身に着いていくので
す。

—ひの社会教育センターでの事業をと
した子どもたちとの関わりの中で、幼少
期の体験が行動のきっかけになること
を、身をもって実感しています。海の実情は、
どうしても生活圏内で目に出来ないとい
感じづらいものですが、今回の取材を通
し「自分ごと」にしたいと感じました。



↑取材はzoomで行いました。

左:「たてやま・海辺の鑑定団」で理事を務める竹内聖一さん
右:インタビュー・渡邊和英

表紙の講師は…

やさしい墨絵講座

第2・第4金曜日(14時〜16時)

講師 丁長林 先生

プロフィール

上海出身の丁先生。来日前は、中学校
で美術を教えていたそうです。33年前に
日本へ。デパートなどでのカルチャー講座
や武蔵野美術学園での講師の経験もあ
り、これまで個展なども度々開催してい
ます。2004年に国際公募水墨画トリエン
ナー・富山にて優秀賞を受賞、富山県立
水墨美術館の買い上げ作品となり、現在
も展示されています。

教室の様子

知人を通じて、ひの社会教育センターで
の講座を始めたのは20数年前。他にも
様々な場所で講座をもつていらつしやる丁
先生ですが、センターでの講座は歴史も長
く、とても大事にしてくださっています。

取材にあたり、「墨絵」について教えてい
ただきました。墨絵は、中国五千年の歴史
と言われるほど古く、日本には鎌倉時代
に伝わりました。西洋の油絵との違いは、
光や影、遠近法は使用せず、物の本質を
とらえた表現方法を用いること。それは、
墨を重ねていくことで、奥行きを生み出し
ています。もともと色のある風景や野にあ
る物を、「黒」で表現する墨絵は、丁先生
の言葉を借りれば「もともと色が違うのだ
から、似てなくていい」とのこと。心の中の
イメージで描きますが、たまに花や野菜
など、実物を見ながら描くことも勧める
そうです。

先生に
聞きました!

会員さんへのメッセージを伺うと、
「まずは『楽しく!』描いてください。」「
2つめには、「目標をつくって。」
大きな展覧会に出品するのは難しくても
小さな個展など、目標があった方がやり
がいにつながります。
そして、最後に、
「墨絵は丁寧すぎるとつまらない」とい
うメッセージ。
ひとたび筆をとると、お話しの際の笑
顔は封印。集中の面持ちで、わずから5分
くらいの時間で、表紙の絵を描きあげて
くださいました。自由でいいんですよ、と
再びにつくりと教えてくださいました。



←テーマは「農村の風景」 余白も作品の一部。

世界一しあわせな国のおはなし お話し会

オンライン講座

講師：ピーダーセン海老原さやか（デンマーク在住・公立特別支援学校勤務）

元センターリーダーのえびちゃん。
2000年に、センターの「高齢者福祉視察の旅」に参加したことがきっかけでデンマークに留学。
その後デンマーク人の夫と結婚し移住。
日本での講演活動などでも活躍中！

3か月ごとに開催しているお話し会、次回2/27(日)は4回目。参加者の皆さんとの対話を重ね進めています。
デンマークの「子どもの自立」を育てる仕組みが見えてくる、教育関連のお話に続き、今回は就学前の「小さな子どもたち」がテーマです。日野市の子育て応援施設モグモグの栗澤雅富美（ひの社会教育センター職員）が聞き手となり、デンマークで保育士として働くムンクイエセン宮腰花絵さんをお迎えし、さやかさんとの対談形式で行います。2022年も一緒に学びましょう！学びつづけ、伝えつづける。これは生涯学習・社会教育のテーマでもあります。グループワークを取り入れ、みんなで学ぶお話し会です。

申し込み受付中!!

日時 2月27日(日) 15:00~16:30

4回目テーマ「デンマーク×小さな子どもたち」

参加費 2,200円（早割り1,650円 先着20名限り）

今回より…学生さんの参加費500円（窓口扱いのみ） ご参加お待ちしております!!

今後の講座予定

5回目 2022年 5月22日(日)

テーマ「デンマーク×大人の学び」

参加費 2,200円（早割り1,650円 先着20名限り）



子どもたちと未来のために、地球を守る

“未来へのバトン”サミット2021

気候変動 # 地球温暖化 # SDGs # 持続可能・維持可能
次世代へのバトン # 子どものためにできること

11/27(土) 開催されました！ 未来へのバトンサミット シンポジウム

オンラインと実践女子大学に103名が集い、未来へのバトンサミット2021シンポジウムが開催されました。

3名の登壇講師から、気候変動の渦中に生きる私たちにできること、子どもたちに伝えていくべきことについて議論や提案がありました。

科学者はテクノロジーの力を使って温暖化に立ち向かおうと努力しています。彼らの活動を応援し、支援することができます。

自然の営みに目を向け、少し不自由な暮らしを楽しめる生き方として自然とのふれあいやDIYなどの実践から暮らしを豊かにしていく方法なども挙がりました。

ここまでインプットしてきた私たちが今後やるべきことは、具体的なアウトプットです。みなさんは地球と子どもたちの未来のために、何をしますか？

主催：公益財団法人 社会教育協会

後援：環境省・東京都環境局・日野市



自然保育ゼミナール 開講

私たちは50年前から野外教育を始め、その流れの中で2009年より『森のようちえん』事業をスタートさせました。

このゼミナールにはこれまでの活動の中で見てきた大切なことや、私たちがもっと学びたいこと、学びを深めたいことをギュッと凝縮しました。みなさんもぜひ一緒に学びませんか？

学べるテーマ

- *子どもをみる視点
- *実効性のある事故予防 リスクマネジメント
- *自然保育下での非認知的スキルと運動能力
- *環境を考えた自然保育の取り組み
- *フィールド素材の活かし方

日程

2021年度を通じ、全12回

各テーマに沿った講座を企画しています。

のこり4回 1/29(土)「ロープ・刃物を使った遊びについて」

2/5(土)・2/27(日)「実践」森のようちえん」

3/19(土)「子ども×自然×オトナ」

お申し込みはコチラ⇒



その他講座の詳細・お申し込みは、ひの社会教育センターHP

または で検索を。



賛助会へのご協力 ありがとうございます

- ① 個人会員 1口 1,000円
鳥居由幸 5口 柿田雅子 130口
山田チエ子 10口 熊谷亜由美 5口
- ② 団体会員 1口 5,000円
いにしえ体操会 1口 矢千代会 4口

★順不同・敬称略

スマイルタウン発行：（公財）社会教育協会ひの社会教育センター

〒191-0062 東京都日野市多摩平 3-1-13 電話 042-582-3136

発行責任者：館長 入手喬

FAX 042-581-0647